

## 提案募集番号5-4

## <作目・畜種：野菜（オオバ、イチジク等）>



### 愛知県の 産地の現状

愛知県のオオバ栽培面積は141haで124億円の産出額がある。また、イチジクは119haで栽培され14億円の産出額があり、いずれも全国一を誇っている（R2）。

近年、栽培の現場では様々な種類の病害虫被害が発生しているが、新規参入者など経験が浅い農業従事者の増加により、正確かつスピーディな病害虫診断が困難となっている。

R3年にAI画像を活用した病害虫診断技術を開発したが、トマト、キュウリ等主要な作物に限られている。



### 農総試での 関連研究成果

トマト、イチゴ、キュウリ、ナスの54種類の主要病害虫について、AIによる画像識別を活用した病害虫診断技術を開発した。

共同研究機関 日本農薬（株）のスマートフォンアプリ「レイミーのAI病害虫雑草診断」にて、R4年3月より無料で利用可能である。



## 提案募集番号5-4

## <作目・畜種：野菜（オオバ、イチジク等）>



### 解決したい 困りごと

病害虫による農作物の被害を低減させるためには、病気等の発生の初期段階において正確な診断を行い、その結果に基づいて最適な防除を行うことが必要である。

生産者の観察による病害虫の確認・診断には、農業現場で行うことのできる簡易な診断技術が求められているが、オオバ、イチジク等といった愛知県特産の農産物では開発されていない。

AI診断では、機械学習のために病害虫種の確定された膨大な被害様相画像のデータが必要となり、病害虫の接種・再現、撮影、他方からのデータ入手及びデータ処理などの様々な作業が必要となる。



解決案

提案募集番号5-4

キーワード：AIを活用した病害虫診断

### 🍁スマートフォン等を活用した病虫の画像診断技術

オオバ、イチジク等、愛知県特産の農産物においてもスマートフォンで撮影した画像から正確に病虫害診断を行うことができるAI診断技術を開発し、的確な防除実施につなげたい。

担当者：環境基盤研究部・病虫害研究室・内田佑太



上記は農業総合試験場の考える解決策であってこれら以外の提案も歓迎します。